長岡京市民大学　　2018 年6月28日

# 第6講座　「伝統楽器・琴」

生田流箏曲正絃社
本部千賀

## 琴・箏

コトを表す漢字によく“琴”が使われていますが、これは厳密には柱（じ）を使用しない楽器のことで例えば、一絃琴や二絃琴等を表します。一般に「こと」と呼ばれる十三絃の楽器が「箏」であり柱を立てて演奏します。「箏」は常用漢字に含まれていないため“琴”の字を当てられる場合が多いのです。

## 箏（コト）の歴史

### 奈良時代

今からおよそ 1300 年前中国大陸から伝来した「コト」は、それより前の弥生時代に生み出されたとされる日本の“コト”和琴（大和琴）と融合し時代を経て多様化していきます。

京都（当時の都）を中心に皇帝や貴族の間で雅楽を演奏する楽器の一つとして楽しまれた。

### 鎌倉時代（1192～1333）

貴族社会から武家社会へと変化する中

箏も京都（近畿）から九州地方へと移り、寺社・僧侶等により受け継がれていく

### 室町時代（1336～1573）

浄土宗善導寺僧侶・賢順により、筑紫流箏曲が、生み出されました。筑紫箏の特色としては、常に精神面が重んじられ厳格な伝承を守り娯楽のための演奏は禁止され、伝承者も武士・僧侶・医師が多く、江戸時代までは女子や盲人に教えることをこばんだといわれています。

### 江戸時代（1603～1868）

八橋検校（賢順の弟子法水に手ほどきを受ける）が、雅楽の調弦に半音を導入し陰旋音階の調弦で「六段の調べ」・「八段の調べ」・「みだれ」など段物と言われる楽曲の原型を作ったといわれ、新たに八橋流箏曲が作られました。このようにして、箏は京都を中心にして全国に普及しはじめ一般民衆化していきました。

上方では、人々の義理と人情をテーマにした浄瑠璃が人気を博していた頃、江戸の浄瑠璃と言われた河東節をベースにして、山田検校が山田流の箏の楽曲を編みだしました。

さらに、生田検校が三味線と箏の合奏に適した絃の調律や奏法に改良をおこない、生田流と呼ばれる箏の名曲を数多く創作されました。

裕福な商人の子女がお稽古事として箏を習い始める習慣も定着していきました。

☆江戸時代では「当道職屋敷」の盲人男性の職として、幕府の保護　のもと受け継がれていき、検校・別当・勾当・座頭の四官の下に十六階級に位分けされていました。

### 明治4年

当道職屋敷は新政府により廃絶される。

洋楽の影響を受け箏の世界にも新しい価値観が持ち込まれていきました。

### 大正時代

宮城道雄（1894～1956）

### 近代～現代

個の感性を表現する箏、新しいスタイルの探求へ♫